

Monthly  
Company  
Magazine

**ONDO**

月刊 **おんど**

March

No.558 2024

3月

**ウチヤ・サモスタット** 株式会社  
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL : 048-955-4181

FAX : 048-956-1310

E-mail : info@uchiya.co.jp

## タックス・ヘイブン(tax haven)、租税回避地の存在

令和6年2月1日

社長 清水 澄人

タックス・ヘイブン(tax haven)、何度か聞いたことがあると思います。数年前にはパナマ文書で物議(欧米の富裕層の税金逃れ者リスト)を起こしましたね、タックス・ヘイブンとは一定の課税が著しく軽減、ないしは完全に免除される国や地域のことです。租税回避地とも低課税地域とも呼ばれています。我がUHKのある香港もタックス・ヘイブン国なのです。元々はイギリスが覇権時代に植民地を増やす際の政策として、小さな国・地域を有効利用、収入を獲得させる手段として開設、これらの国を通して世界の裕福層や富裕企業の通貨が、一旦、イギリスを通して世界に流通させる制度なのです。案外、このタックス・ヘイブンのことを昨今良く知らない人達が多く、その成立理由・歴史・地域・内容に関して以下説明しますので、認識を新たにして単純ではない国際ビジネスの知識を学んで下さい。

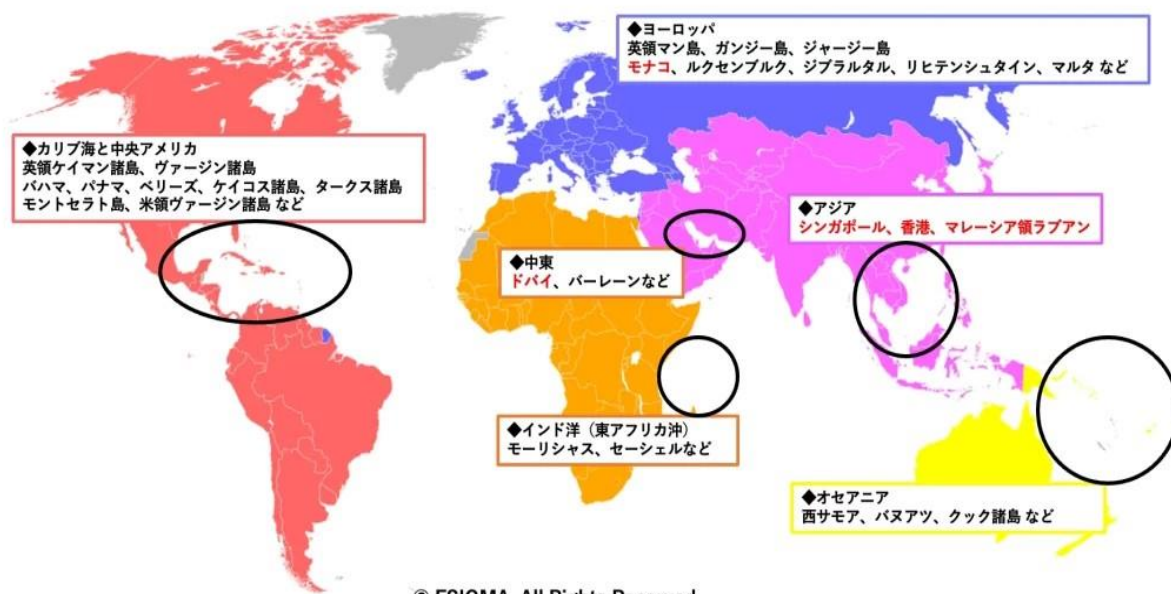


## タックスヘイブン = 税金天国？

ヨーロッパでは、イギリス領のマン島・ガンジー島・ジャージー島以外に、モナコ、ルクセンブルク、ジブラルタル、リヒテンシュタイン、マルタといった国がタックス・ヘイブンとされています。中米やカリブ海諸国では、イギリス領のケイマン島・ヴァージン諸島、バハマ、パナマ、ベリーズ、ケイコス諸島、タークス諸島、モントセラト島、アメリカ領ヴァージン諸島、米国東部のデラウェア州などが挙げられます。中東ではドバイやバーレーンといった国がタックス・ヘイブンに属しています。イ

インド洋(東アフリカ沖)ではモーリシャス、セーシェルがタックス・ヘイブンとされています。オセアニア地域では西サモア、バヌアツ、クック諸島がタックス・ヘイブンですし、日本人に馴染みの深いアジアで言うと、シンガポールや香港、マレーシア領ラバアンといったところがタックス・ヘイブンになっています。私も誤解していましたが、英語のタックス・ヘイブンの haven の日本語での意味は避難所であって、楽園や天国を意味する heaven ではありません、租税回避地とも低課税地域とも呼ばれます。但し、フランス語では「税の楽園」「税の天国」を意味するパラディ・フィiscal (仏: paradis fiscal) と言い、ドイツ語などでも同様の言い方をします。スペルは微妙に違うのですが、税金に苦勞している我々に取っては天国や楽園の方が事実を伝えている様に思いますね！

### 世界の主なタックスヘイブン



イギリスは世界で最もタックス・ヘイブンの領土を持っているため、外貨がイギリス領を通じてやりとりされるわけですが、実は1960年代からスイスと同様に「秘密主義」が導入されました。お金のやりとりに対して「誰がいくら何をやりとりした」といった情報を他の国に漏らさない、秘密主義を取り入れたわけです。これは富裕層や大企業にとって都合がいいということで、イギリス領のタックス・ヘイブンが使われるようになりました。なお、現在はこの「秘密主義」は取り除かれており、マネー・ロンダリング問題もあって、かなり透明性が高くなってきています。

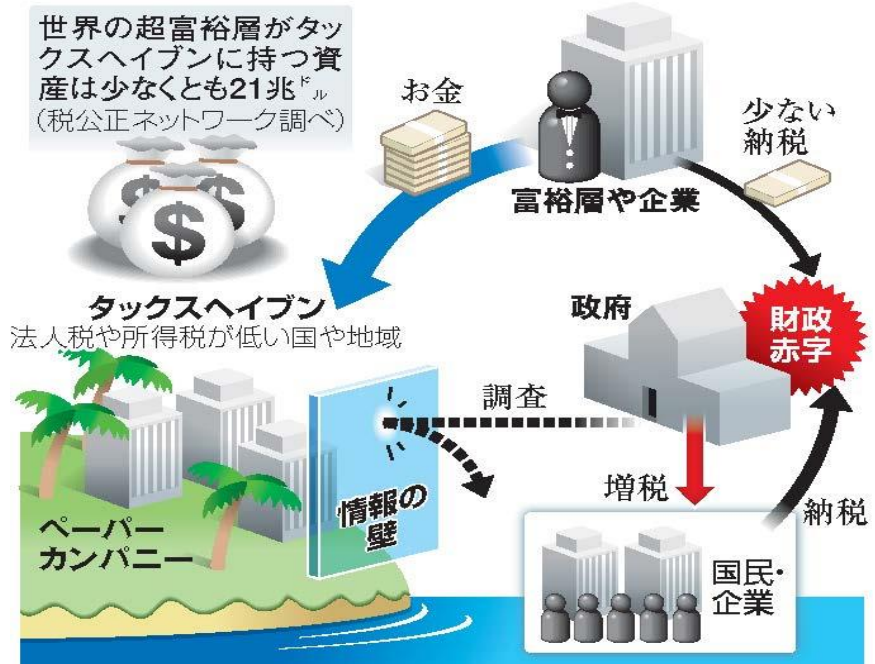
資金洗浄(英: money laundering)マネー・ロンダリングとは、規制薬物取引、盗品などの贓物取引、身代金、詐欺、違法賭博、脱税、粉飾決算、裏金、偽札などの犯罪行為によって得た現金、汚い資金から、出所を消し・汚れを洗い流し、正当な手段で得た資金と見せかけること、捜査機関や司法機関による口座凍結、差押、摘発、徴税等を逃れる目的で行われる行為です。このマネー・ロンダリングに関しては、最近特に欧米の企業、監査法人、会社登記所、等々から、会社やオーナー、経営者に対して、この様な行為に関わっていないことの宣言書や証明を要求されるケースが大変に増えています。逆に言えばマネー・ロンダリングやこの種の詐欺が世界的に横行していることの裏返しと思われる。

どの国も面積が狭いという特徴がありますが、面積が狭い国は製造業や農業を発展させることが非常に難しいですね。そこで、税率を安くすることで海外から企業を誘致し、特に物理的な場所をあまり必要としない「金融業」や「インターネット関連業」で伸びていこうとしている国が多いのが特徴です。

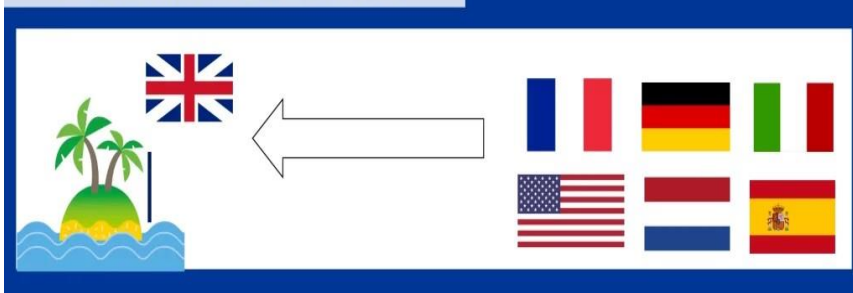
19世紀のイギリス帝国主義時代、パックス＝ブリタニカ時代とも言われていますが、イギリスが世界の覇権を握っていた時代、当時のイギリスは世界中にたくさんの植民地を持っていましたが、植民地を有効活用するために、植民地における企業の税金を低く設定して、海外から企業を誘致しました。つまり、よその国から植民地経由でイギリスへお金を流そうとしたわけです。これが世界中にタックス・ヘイブン国が作られた最大の理由でした。具体的に

は、フランスやドイツ、イタリア、アメリカといった国々に対して、イギリス領のいろいろなところにタックス・ヘイブンを作り、税金を安くする代わりに企業をたくさん誘致したという経緯です。イギリスが作ったタックス・ヘイブンは今でも残っており、世界で最も多くのタックス・ヘイブン領土を持っています。

### 世界中のお金がタックスヘイブン(租税回避地)に集まっている



#### タックスヘイブンの元締めはイギリス



多くのタックス・ヘイブンを抱えていることもあって、イギリスの外国為替の取扱量は世界1位です。1日当たりで平均3兆5760億ドル。世界全体の40%以上をイギリスが占めています。ちなみに2位はアメリカですが、約1兆

3700億ドルとイギリスの半分以下です。世界の基軸通貨はアメリカドルですが、通貨の取引量という観点では実はイギリスが今でも世界1位です。その理由は、タックス・ヘイブンをたくさん持っていて、そのタックス・ヘイブンを通して世界中の企業がお金をやりとりしているからです。イギリスは今でも金融分野で世界の覇権を握っています。

タックス・ヘイブンの中には、ペーパーカンパニーのオーナーや資金の流れを特定するのが難しい秘匿性の高い国や地域があります。合法的な租税回避ならまだしも、中には違法性のあるマネーロンダリング(資金洗浄)に使われていることもあり問題となっています。OECDやEUは、タックス・ヘイブンの監視を強化し、秘匿性の高いタックス・ヘイブンの「ブラックリスト」を作成して、そのリストの国や地域の法人とは取引をしないように促しています。今後も、世界的に租税回避の仕組みを封じる対策や監視を強化する流れに変わりはないでしょう。しかし、一方でタックス・ヘイブンを活用して税金を抑える仕組みが完全に消えることはないと言われています。又、イギリスはEUを離脱しましたが、そのEU金融制度の統一強化規制への回避も、EUから離脱した原因の一つと言われています。



2016年5月11日 日本経済新聞朝刊 3ページ

英領ヴァージン諸島 (British Virgin Islands 以下 BVI) はカリブ海の群島で現在はイギリス自治領の一つです。60ほどの小島からなる人口2万人あまりの観光を主産業とする小国です。BVIで一切の法人活

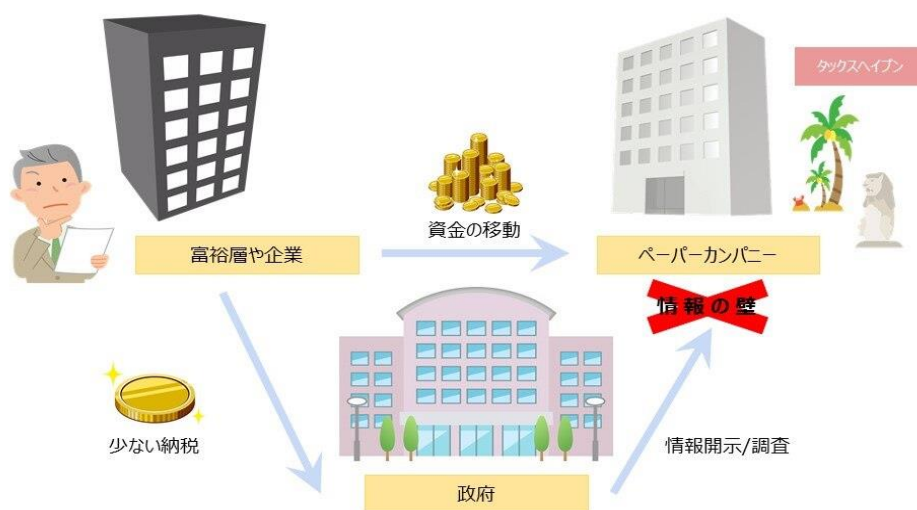
動をしないとした IBO (International Business Corporation) 法人は、完全非課税になり、その代わり毎年の法人登録税の支払いが義務づけられます。いわゆるタックス・ヘイブン (租税回避地) として、世界各地からの資本を惹きつけています。また、BVI法人は以下の特徴があります。・会計監査、税務申告が義務づけられていない・取締役会の開催義務がない・登記内容の機密保持性が高い。

### パナマ文書問題

パナマは中米の国で、欧米の富裕層御用達のタックス・ヘイブンになっています。事の発端は、2016年4月にパナマの法律事務所から顧客名簿が流出したことです。これは、パナマに法人(ペーパーカンパニー)を立てて税金逃れしている人たちのリストで、それが流出したことが話題になりました。そのリストには、世界の権力者や富裕層と言われる人たちの名前がたくさん書き連ねられていました。つまりこの人たちがタックス・ヘイブンを使って意図的に税金逃れしていることが発覚したわけです。ちなみに、日本人の名前もそのリストの中にあっただそうです。その中には元外交官や大企業の経営者といった700名もの人たちの名前が入っていたと言われています。

パナマは「船のタックス・ヘイブン」とも言われています。太平洋と大西洋を結ぶパナマ運河があること

で船の交通量が多いのもその理由の一つですが、船を置いておく税金が非常に安いのが主な理由です。日本の商社でもパナマに船の船籍だけ置いておくことがよくあります。これを「便宜置籍船国」と言います。最近、日本の会社の船が他の国で座礁したというニュースがありましたが、よく見てみると日本の商社の持ち船でも船籍はパナマになっていましたね！



以上

## 健康企業宣言「食に取組みます」について

2024年2月13日

資材総務部課長代理 今田優子

今回は、宣言の証の「③食に取組みます」についてご報告いたします。

2022年8月23日の衛生委員会で、産業医伊藤先生より衛生講話の議題として「食事について」の内容を説明していただき、その際に使用した資料は、全従業員に配布いたしました。健康優良企業「銀の認定」を目指そう！のコーナーに衛生講話の「食事について」の資料を貼りだすとともに月刊おんどでも内容をおさらいいたしますのでぜひご覧ください。

### <食事について>

- ・必要以上にカロリーを摂取すると、脂肪として蓄積されてしまう。
- ・必要なカロリーを知り、カロリーの摂り過ぎに注意しましょう。
- ・年齢、性別、身体活動レベルで1日に必要なカロリーが違う。
- ・適正体重 = (身長 m)<sup>2</sup> × 22。
- ・1ヶ月あたりの減量目標は、現在の体重の3~5%程度までに！ 急激に体重を減らし過ぎると危険。
- ・食生活の見直しとして、麺類を減らし、揚げる食事から茹でる食事、お菓子の代わりに果物、洋菓子より和菓子、牛乳から低脂肪乳、肉類を控え魚類、野菜の量を増やしましょう。
- ・1日で摂りたい野菜の量は、目標1日350g。
- ・高血圧予防の食事のポイントとして、血圧を下げるには、減塩とカリウム摂取が効果的。
- ・減塩目標1日6gまで、カリウム摂取目標1日3510mg。
- ・糖尿病予防の食事のポイントとして、食物繊維を摂取し、血糖の上昇を和らげましょう。



健康優良企業 健康保険組合連合会 東京連合会

- ・食物繊維目標 1日 20g 以上。
- ・中性脂肪が気になる人は、果物や甘い物を食べ過ぎないようにし、早食いをせず、ゆっくりよく噛んで食べること。アルコールを飲み過ぎないようにし、青魚を積極的にとること。
- ・脂質異常症予防の食事のポイントとして、過食・偏食を控え、バランスよく食事しましょう。
- ・コレステロールが気になる人は、卵、魚卵、レバーを控え、大豆やきのこ、海藻類を積極的にとり、お肉の脂やマーガリンなどの油を控えましょう。

また、会社で注文している仕出し弁当の献立表には、おかず及びカロリーが記載されていますので、注文する際にご覧ください。ちなみに、ごはんは並で 380 カロリー、大で 510 カロリーです。

最後に、「あなたの健康は食事で決まる！病気に負けない体づくりには野菜が不可欠だった！肉や魚だけでは栄養不足！？」と「微糖や無糖のドリンクに、こんなに糖質が入ってるの?!」のポスターを掲示しておきますので、飲食をする際に、ポスターの内容を思い出してみてください。



以上

## 福島第一原子力発電所他視察出張報告

令和5年11月19日

西谷康治

令和5年11月16日(木)と17日(金)、打矢会長、山崎監査役とともに、日本電熱器工業共同組合 JJEHAの会主催の福島研修会に参加しました。

この研修会は、廃炉作業中の福島第一原子力発電所の見学が含まれていたため、事前に、「原子力発電所視察の注意事項」が配布され、身分証明書の確認、カメラ、携帯の持ち込み禁止、被ばく防止のための長袖の着用などが求められており、出発前から緊張感を感じましたが、またとない機会でもあるため、参加することとしました。以下、視察の内容をご報告いたします。

### 11月16日(木)

11:30に郡山駅集合し、バスで福島原発のある双葉町へ移動。バスの中、公益財団法人福島県観光物産交流協会の添乗員高橋様から、現在の福島原発近辺の実情の説明があった。

福島原発は双葉町と大熊町にまたがっており、双葉町は2022年8月に避難指示を解除したばかりで住民は90人(うち地元民は1/3。残りは工場・東電関係者)。

最近、災害被災跡地、戦争跡地など、人類の死や悲しみを対象にした観光を「ダークツーリズム」と呼ばれるが、福島県では、「ホープツーリズム」として商標登録し、地震・津波、原子力災害という世界で類を見ない複合災害を経験した福島の「ありのままの姿(光と影)」と、様々な分野で「復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話」を通して、これからの成長のための学びの種を提供しようとしている。中高生の修学旅行や行政の視察、企業の人材育成にも利用されており、実情を見て、衝撃を受ける人も多いとのこと。

福島県の80%は除染されているが、まだまだ除染は続いている。2014年ごろから除染(地表を5cm削る)が開始され、福島原発の周りをドーナツ状に「中間貯蔵施設」を設置し、残土を貯蔵している。量は東京ドーム11杯分、敷地は渋谷区と同じ広さ。

農地では農業ができないため、太陽光パネルが設置されるケースが多い。

大熊インターチェンジを降りたとき、放射線量計が設置されており、空間線量 $0.4\mu\text{Sv/h}$ と表示があり、久しぶりに線量計の数値を見て少し緊張。ただ、環境省の除染基準 $0.23\mu\text{Sv/h}$ (年間1mSv)に比べると少し高めだが、避難指示基準 $3.5\mu\text{Sv/h}$ (年間20mSv)を大きく下回るため、線量としては問題なし。

### <東日本大震災・原子力災害伝承館>



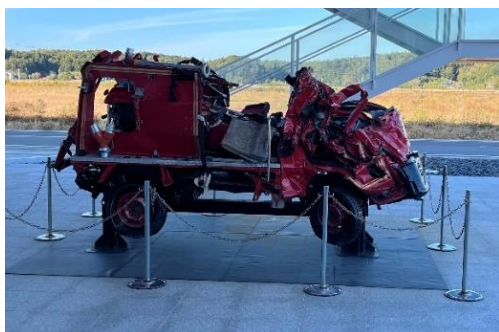
「未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでゆく」ための施設。

東日本大震災の際の津波の被害とともに、福島第一原発事故後の対応、原子力災害の影響を展示。

伝承館からは海側へは平地が広がっており、津波の後、住宅に適しないことから集団移転が決まったため、更地となっている。ただ、1軒だけ父と娘を無くした未練があり、取り壊されずに残っているという住宅があった。

震災前は「原子力明るい未来のエネルギー」と双葉駅前に原子力広報のパネルが掲げられていた。農業しか産業が無く、冬になると出稼ぎをしていた地域に1971年に原子力発電所が

運転を開始し、兼業農家が可能になり、住民はクルマが持てるほど裕福になった。国の政策の影響もあると思うが、小学生が原発に感謝する作文が展示されていた。



←津波で流された消防車



福島第一原発のジオラマ→

### <双葉町・浪江町フィールドワーク>

現地のガイドに引き継ぎ、双葉町、浪江町内をバスで案内された。  
 双葉町は 2022 年 8 月に避難解除となったばかりであり、震災当時の 1 階がつぶされた状態の建物が残されていた。ガイドからは「写真を撮っても良いが、SNS には流さないでほしい」と要望があった。(地域についての誤解を与えたくないためと思われる)  
 消防署では、停電のためシャッターが開かず、強引に消防車(上記の写真の消防車)で押し開けた、とのこと。時計は 14:47 分で止まっていた。



←左は建設中の「福島県復興祈念公園」。2025 年完成予定。T 字が津波の高さ 16.5m。

### <浪江町立請戸小学校>

津波後の更地の中に、ポツンと請戸小学校が「震災遺構」として残されていた。



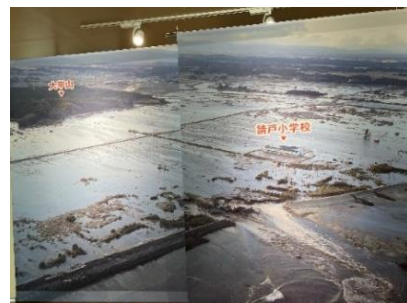
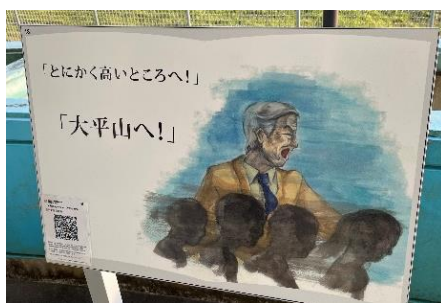
津波は 2 階まで到達



地震発生当時、周辺住民から「津波が来る」と連絡があり、大平山へ避難することに。  
 しかし、その大平山までは 1500m 以上の距離があり、小学 2 年生から 6 年生まで全員助かったのは奇跡的に思われた。(1 年生は帰宅後だったが、全員無事だったとのこと。津波到達は 15:38)

その後、避難した大平山までバスで移動したが、小さい子供を連れて、「よくこの距離を移動できた」と感

じたとともに、そこに建てられていた犠牲者の慰霊碑を見て、家族を失った子供もいただろうとその後の苦労も感じられた。ガイドからは、地震の次の日には原発事故による「避難指示」が発令されたため、「犠牲者の捜索もできなかったことが心残り」という住民の話も聞いた。



「津波は 1 m の深さで人が死ぬ」。プールとは違い、ガラスや瓦礫が含まれており、時速 30~40 km で流れてくる、とのこと。

### <棚塩産業団地>

現在、49 ヘクタールという広大な土地に、「福島水素エネルギー研究フィールド」(太陽光など再生可能エネルギーを利用してクリーンな水素を生産)や「福島ロボットテストフィールド」(無人飛行機の実験用の滑走路など)などが設置され、活用されている。住民がいらない分、少々危険を伴う恐れのある事業をすすめるには、適した場所に思われた。



←大平山や棚塩産業団地など、近辺の観光スポットでは、写真のような芝刈りロボットが稼働していた。(ガイドからは、「さぼってないか見てやってください」と話があった)



## 11月17日(金)

宿泊した「ホテル双葉の杜 (2020年開業のビジネスホテル。近くにはAEONや「道の駅なみえ」、セブンイレブン(ただし24時間営業ではない)が開業しており、復興が進められている)」をバスで8:30に出発。富岡町の「東京電力・廃炉資料館」をめざす。

その途中、「夜の森」という桜並木で有名な場所があるが、長い間立ち入りが制限されており、2023年4月からやっと花見が可能になった。6号線沿いには、かっぱ寿司、ケーズデンキなどのロードサイド店が立ち並んでいるが、いずれも閉店となり、いままで取り壊すこともできないままになってきた。特にケーズデンキは2011年3月12日開業予定であったため、1日も開店できず閉店。残された家電がその後、盗難にあっていたとのこと。

### <東京電力・廃炉資料館>



もともと、東京電力の施設で、原子力PR館だったものを「廃炉資料館」として、原子力事故の反省と教訓、廃炉事業の内容についての資料を展示している。

まず、ここで「福島第一原発」を見学する前の注意事項や手続き、現在の廃炉作業の状況、特に今年8月以降排出されているALPS処理水(汚染水の多核種除去設備、Advanced Liquid Processing System)についての説明を受けた。(見学の同じグループには京都や大阪の市会議員の視察団体が参加していた)

携帯電話など撮影が可能な機器の持ち込みは厳禁。内部被ばくの恐れがあるため、飴玉などの食品、個人のボールペン(落としたり拾えない)も禁じられていた。

### <福島第一原子力発電所>

廃炉資料館から東京電力のバスに乗り換え、30分程度で福島第一原発に到着。バス内で動画による入館手続きの説明があった。(途中、6号線の放射線量は $1.138\mu\text{Sv/h}$ の表示)

・「本人確認」(免許証など)⇒一時立ち入り許可証の受取⇒金属探知機のゲート通過⇒許可証チェック⇒積算線量計受取⇒ベスト装着。構内専用のバスに乗り換え。

・作業員は1日当たり4,120人。入るとすぐに「救急医療室(ER)」(ドクターヘリの利用も可能)。事故後、不測の事態に備えて設置されている。事故後建設された大型休憩所では、ローソンやシャワー設備があり、温かい食事がとれるようになったとのこと。

・バス内部に放射線量計が設置されている。0.2~ $0.4\mu\text{Sv/h}$ で始まり、ALPSのセシウム吸着フィルタ(コンクリートで固めて保管)付近で $0.7\mu\text{Sv/h}$ 。1号機が見えるところで $18.1\sim 21.8\mu\text{Sv/h}$ に上がり、1~2号機間の観覧デッキ(屋外)のそばでは $41\mu\text{Sv/h}$ となった。(屋外では $60\mu\text{Sv/h}$ と表示されている⇒右の写真)入館者が受け取った積算線量計は見学中に浴びた放射線の総量が $0.02\text{mSv}$ を超えるとアラームが鳴るようになっており、観覧デッキ以降、参加者のアラームが鳴るようになった。(歯医者さんのレントゲンが $0.01\text{mSv}$ 、東京~ニューヨーク間の航空機では $0.1\text{mSv}$ であるため心配ない、との説明あり)

・観覧デッキでは、汚染水対策としての敷地舗装(フェーシング)、陸側遮水壁(凍土方式)の



説明を受けた。3号機、4号機の使用済み燃料は取り出し完了。取り出した燃料棒は発電所内に保管されている。・1号機の使用済み燃料プールの上には瓦礫があり、放射性物質の飛散を避けるため、大型カバーを作ってからでなければ、撤去ができない。カバーの設置だけでも多大な時間がかかる。排気塔の解体も無人で行うため、ロボットの開発から必要となった。・原子炉から出た冷却水はセシウムを除去し、淡水化した後、原子炉に循環させているが地下水や雨水の流入により、1日 $90\text{m}^3$ の余分な汚染水が発生しており、ALPSでトリチウム以外の62核種の大部分を除去して、ALPS処理水としている。トリチウムは水の分子とよく似ており、除去の技術が無い。そのため、1500ベクレル未満に希釈し

て放水している。(前頁の写真は、放水路付近の説明) この 1500 ベクレルは国の基準 60000 ベクレル、WHOの基準 10000 ベクレルを大幅に下回っている。

・津波により事故が起きた原因の一つとして、福島第一原発自体、35mあった岩盤を 10mに削って作ったことがある。また、事故前に 1号機から 6号機まで非常電源を 2台ずつ使える状態となっており、5~6号機は非常電源を使った。1~4号機も非常電源は無事で利用できたはずが、配電盤が水没してしまったという話があった。

・現在、安全性の説明をわかりやすくするため、ALPS 処理水と海水でヒラメとアワビの飼育をしており比較しているが、今のところ差が無い。トリチウムは体に取り込まれるが蓄積しないため、体内のトリチウムが増えすぎることはない。

・作業員の被ばく量や、燃料デブリの取り出しなどに問題があり、廃止措置完了までは 30~40 年かかる。

・最後に ALPS 処理水の現物を見せてもらい、汚染水から放射性物質を許容値まで除去し、安全な基準まで希釈して海洋に放水していることの説明を受けた。担当の東京電力職員からは「良い、悪い、の意見はあるかもしれないが、是非この情報を皆さんに伝えてほしい」との依頼があった(左の写真が、ALPS 処理水の説明の状況)。



### <東京電力・廃炉資料館>

福島第一原発の見学後、バスで廃炉資料館に戻り、廃炉資料館の展示物の説明を受けた。

・原子力発電の仕組み、1号機~4号機の事故の経緯、事故当時の東京電力職員のインタビューなど、説明を受けたが、まず強調されたのは、東京電力からの事故を起こしたお詫びと反省であった。

### <とみおかワインメニュー>

・震災後、復興に取り組む富岡町の名物を作りたい、と 2016 年より町民有志でワインブドウ栽培を行っている。2023 年にはワイナリーを設立。現在、クラウドファンディングで運営し、出来上がったワインを分けている。事業には 7 人の移住者を含む。

右の写真の手前がブドウ畑、奥には福島第二原発が見える。



### <感想>

・参加について、社長のお誘いがあった際は、福島原発には 2011 年当時のイメージしかなく、正直、「そんな危険なところに行って大丈夫か」との思いもありましたが、実際現地に行くと、隣では中高生が気軽に震災遺構を見学しており、富岡町などはスーパーや病院が整備され、浪江町では道の駅まであり、日常生活が戻りつつあることが良くわかりました。

福島原発でさえ、見学者の防護服やマスクの着用義務はなくなっています。

双葉町など、避難指示解除から間が無いため、古い建物も残されていますが、徐々に復興するのではないかと感じられました。

・人の不幸な出来事を興味本位で見に行ってもよいのか、という気持ちも「ホープツーリズム」ということで前向きにとらえることができます。添乗員の方も、街中のガイドの方も、東京電力の職員も、ワイン栽培の事業者も誇りをもって、復興に取り組んでいる様子がよくわかりました。まずは「実際に見て、実情を知ってほしい」ということ。東京電力の方の ALPS 処理水の海洋放出の説明も安心感をいただきました。

・廃炉資料館での「東京電力の反省」について、「安全神話のため、対策が甘かった」というのは、社内の安全対策を考えると身につまされる問題です。「時間がかかるから、手間がかかるから、お金がかかるから」で、安全対策を逃げてはいけない、との気持ちを強くしました。

・気になって、「放射性物質による直接的な健康被害はあったのか」を添乗員に聞きましたが、「甲状腺がんについては、『微増』とのことだが、原発事故との因果関係はわからない。震災での死因の 1 位は溺死、2 位は低体温証、3 位はストレス。ただし、将来、健康被害がでるかどうかはわからない」との話でした。事故から 12 年がたっており、除染が進んでおり、原発事故による明らかな健康被害が出ていないことから、今回の福島原発事故については、放射線量を恐れすぎることは無いように感じています。

・原発は絶対悪、とは思っていませんが、1度の事故がこれだけの人の人生に影響を与え、廃炉にも多大な時間とコストがかかることを考えると「割に合わない」「電気という恩恵だけを受けて、子孫にトラブル(負の遺産)を先送りしている」ように感じました。

いずれにしても、頭でとらえるだけではなく、実際見て感じる事が大事だと感じました。良い機会をいただきありがとうございます。

以上